

改版の序

この小著を世に送り出して8年になります。ゆくりなくも江湖の好評を得て（得たのか？）版を重ねることができ、著者として欣快に堪えません。

この数年間、皮膚科領域では多くの新薬が世に出ました。特に乾癬の治療では新たな生物学的製剤、内服薬、外用薬が陸續と登場し、この文を書いている時期の影響でしょうか、「乾癬爆発」という言葉が浮かんで来るほどです。

新しい治療薬は乾癬にとどまらず、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痤瘡、爪白癬、帯状疱疹、メラノーマ等々、さまざまな疾患領域でも現れ、枚挙に暇がありません。その一方で、販売中止になった薬があり、ガイドラインの改訂や添付文書の記載変更もありました。

本書の内容は如上の時流に合わせ、機会あるごとに細かくアップデートして参りました。しかし、昨今の状況との逕庭が気に懸かり、能う限り早く改訂版を出したいとの想いも募っていました。頭と眼の劣化のため、脱稿が予定より1年近く遅れて終いましたが、漸く新版を上梓するに到った次第です。

この第二版では、各章症例を1例ずつ加え、全体で63例としました。また、本文では紙幅の都合で書き尽くせなかった内容を巻末の「註記・文献」で補足していますが、ここを倍以上のボリュームに拡充しました。教科書にないようなことまであれこれ書き連ねてあります。本文だけでは懽りない専門医の先生方には、「註記・文献」をお楽しみ戴ければ幸いです。

私事ですが、旧版を上木の後、秋田大学から東京医科大学に移り、保険診療の地域差や施設による考え方の違いを感じるようになりました。その点も踏まえより普遍的な記述になったものと自負しております。

最後に、筑波大学時代薰陶を受けた故・上野賢一先生の格調高い文致に魅了され、名著「小皮膚科書」の第二版（金芳堂、1977）の序文から一部の表現を拙文にお借りしてしまったことを告解いたします。

2021年3月

恩師を偲びつつ

梅林芳弘